

臨終の言葉 1

先人は、自身の人生最期の時をどのように迎えたのか……。
伝えられている多くの言葉からは、さまざまな生き様が見えてくる。
終わりよければすべてよし！と言われる。

人間は死に面する最期のとき、本当のことを語るというのが……。
先人の臨終の言葉を集めてみた。

- 夏目漱石 ああ、苦しい、今、死にたくない。
- 森鷗外・本名：森 林太郎 余は石見人、森林太郎として死せんと欲す。墓は森林太郎のほか一字も彫るべからず。
- 若山牧水 なぜみんなそんなに俺を見ているのだ。
- 良寛 江戸後期の曹洞宗の僧。諸国行脚の後、郷里越後に住んだ。文政13年7月、激しい下痢を患う。症状は夏から秋にかけて一進一退した。そのときの反古のなかに「ぬばたまの、夜はすがらにくそまり明かし、あからひく、昼はかわやに、走りあえなく」の歌がある。大晦日、介抱していた貞心尼は「生き死にの境離れて住む身にも、通らぬ別れのあるぞかなしき」と口ずさむと、良寛は「裏を見せ表を見せて散るもみじ」とつぶやいた。明けて1月6日夕、眠るが如く去った。73歳。
- 葛飾北斎 江戸時代後期の浮世絵師。生涯に93回引越しをし、酒も煙草ものまずただひたすら描き続けた。嘉永2年4月風邪をひき、枕頭には娘や弟子たちが集まった。ここで彼は「ひと魂でゆく気散しや夏の原」と辞世をよみ、「あと10年生きたいが、せめてあと5年の命があったら、本当の絵師になられるのだが」とつぶやいて息を引き取った、89歳。
- 高村光太郎・墓碑銘 一生を棒に降りし男ここに眠る。彼は無価値に生きたり。
- 西条八十・墓碑銘 われらたのしくここにねむる。離ればなれに生まれ、めぐりあい、短き時を愛に生きしふたり、悲しく別れたれどこにまた心となりて、とこしえに寄り添いねむる
- イエス・キリスト・キリスト教開祖 わが神よ！ どうして私をお見捨てになったのですか。
- チャーチル イギリスの政治家。最後の日に近い誕生日に「私は随分沢山のことをやって来たが、結局何も達成できなかった」と娘に語った。最後の言葉は「何もかもウンザリしちゃったよ」である。91歳。
- ゲーテ ドイツの小説家、劇作家。1832年3月16日、ゲーテは風邪をひき、床についた。22日午後11時30分、椅子の隅に身を寄せかけたままで亡くなった。「窓を開けてくれ。明りがもっと入るように」と言ったのが最後の言葉である。「もっと明りを」という印象的な言葉はこれに基づいている。83歳。
- ダーウィン 死ぬことは、ちっとも怖くない。
- トーマス・エジソン 向こうはとても美しい。
- ナポレオン一世 フランスの皇帝。1815年6月、ワーテルローの戦いに破れたナポレオンは、セント・ヘレナに流刑の身となった。ここで彼は数年の内に、食欲不振と足のむくみを訴えるようになった。1821年3月から、ろくな手当を受けることなく、病床についたままとなった。4月に「私はイギリスの暗殺者に殺されるのだ。私の骨はセーヌ河のほとりに埋めてくれ」と遺言した。5月5日午後5時「神よ、フランス国民、私の息子、軍隊の先頭」と、とぎれとぎれにつぶやきながら死んだ。そのとき左目から涙がこぼれていたという。イギリスの薬学者がナポレオンの遺髪を検査した結果、死亡前約4か月にわたって砒素系の毒物を摂取していたことが判明した。52歳。
- キュリー夫人・仏・物理学者 (注射をしにきた医者に向かって) もう結構です。そっとしておいてください)